

戦争国家の足もとを揺らせ！戦争機械を止める！



イラクでの空爆から2年半が経つ。

あの戦争に日本の路上からも反対の声が上がったのが、まるで嘘だったかのような情景が、いま私たちの前にある。『イラク戦争』をステップボードに、日本社会をさらに戦争国家への道へと放り込んだ小泉の政府が、先の選挙で圧倒的な大多数によって選び直されたというサプライズ……。そんな劇場政治に立ちくらみを覚えるなかで、私たちは2年半前と同じように爆撃と聞き、掃討と聞き、死者が出たと聞きながら、以前より心を揺らすことがなくなっているはいないか？

しかし、今まさに上げ潮の小泉政府は、そんなヤワな私たちに目もくれず、イラク特措法の再延長を、憲法の改悪を、繰り出してくるだろう。戦争国家としての法体系は果てしなく強化され続け、もはや「国権の発動」としての戦争への歯止めなんて、ほとんど残されていない。

そのような社会で、漫然と日々をくらすことは、すでに私たちは戦争にそのまま動員されているようなものじゃないのか？ 私たちの日常は戦争国家に合法的にかすめ取られ、奪い取られ、無数の死をもたらすことに加担している、と言ってもいい。その一方で、殺りくはイラクの大地をおおったまま、硝煙と血のにおいのするニュースはまったく途絶えることがないのだ……。

私たちは〈反戦〉の意味をつかみなおす必要を、これまで以上にヒシヒシと感じている……だから、私たちは今年も「反戦と抵抗の祭〈フェスタ〉」をつくろうと思う。

私たちを戦争に動員する社会って、いったいどんな社会なのか？ そして、誰が押し潰され、誰が排除されるのか？ イラクへの戦争に参加し続ける日本国内での様々な抑圧の実状を考え、そしてかの地で生を脅かされ、奪われ続けている人びとへの想像力としていきたい。

限られた時間とスペースかもしれないが、昨年同様、様々な形でこの状況に抗っている多くの仲間たちと集まり、これからの〈反戦〉への想いを出し合って議論し、交流する場をつくろうと思う。そして共にデモをつくり、街に繰り出す……そんな〈フェスタ〉を実現させたい。

11月19日、ぜひ参加してほしい。戦争国家の足もとを揺りうごかそう！

日時●2005年11月19日(土)
12時～21時(17時30分～19時はデモ)
場所●渋谷区立・千駄ヶ谷区民会館・集会場
(JR山手線「原宿駅」・東京メトロ「明治神宮前」駅下車、歩10分。東京都渋谷区千宮前1-1-10)



資料代●500円
内容●トークセッション・ワークショップ・上映・ギャラリー・ブース出展・デモなどを企画(裏面参照)
※実行委Webサイト等でアップデートされた情報を随時お知らせしていきます。ご期待！
主催●反戦と抵抗の祭〈フェスタ〉2005実行委員会
〔連絡先〕東京都新宿区新宿1-30-12-302 新宿事務所気付
TEL) 070-5587-3802
URL) <http://yurayura.mine.nu/r-festa/>
e-mail) war_resisters_fes@yahoo.co.jp

賛同団体(11月8日現在/＊印はブース出展あり)●イラクからの自衛隊撤退と沖縄の米軍基地撤去を求める実行委員会(反安保実IX)/イスラエル首相シャロンを許すな！来日反対キャンペーン*/医療福祉の戦争協力に反対する連絡会議/ウリ-ジャパン(戦争抵抗者インター-日本部)*/海外派兵をやめろ！戦争抵抗者の会*/山谷労働者福祉会館活動委員会/市民の意見30の会*東京*/ジャマルさんを支援する会*/ジュゴン保護キャンペーン(sdcc)* /障害者一介助者反戦/立川自衛隊監視テント村/たんぼぼ舎/抵抗食の会*/テロリストは誰？9条の会*/反戦・平和アクション編集委員会/ACA(反資本主義行動)*/びーすぐっつプロジェクト*/ビデオプレス*/ピリカ全国実*・関東グループ*/模索舎(有志)*/遊動社*/リバーバンド・プロジェクト*

(運営上の確認)ともに活動をすすめるなかで、自らの立場・意見を他に認めさせるための暴力を行使する、あるいはその行使の可能性によって他を脅すことを実践し、かつ、それらを正当化する人びとの参加はおこわります。

反戦と抵抗の祭〈フェスタ〉2005

★聞く—— TALK SESSION

Session-A 「排除」への抵抗と連帯

【ゲスト】 織田朝日 (クルド人難民二家族を支援する会)
お喋り (山谷労働者福祉会館活動委員会)

憲治 (落書き反戦弾圧反撃杉並行動[04年11月]、
『yamaと公園』連続上映[05年10月] 実行委員)

【同会】 津村洋 (ジャマルさんを支援する会)
(13:30~15:00/集会場)

イラクを始めとした地域に自衛隊を送り続ける参戦国・日本は、戦争のできる国家であり続けるために国内においてもさまざまな排除=内なる戦争を押し進めている。これに立ち向かい、生きている人びとの声を通して、足もとからの〈抵抗〉を考える。

Session-B 〈反戦〉の意味をつかみなおす

【ゲスト】 高瀬香緒里 (特定非営利活動法人 PEACE ON 事務局員)
田巻一彦 (脱軍備ネットワーク・キャッチピース)

井上森 (立川自衛隊監視テント村)
(15:30~17:00/集会場)

空爆開始から2年半をへてもなお、イラクの惨禍を防ぎえないという焦燥感……あるいは状況が好転しないことから生ずる関心の低下。国内の反戦・基地・管理・監視・安全安心など、それぞれに深刻である諸課題への取り組みが縦割りになっていく状況。これらをともにはねかえすものとして、〈反戦〉の意味をつかみなおす。

Session-C 戦争と資本のグローバル化に抗して

—— 私たちの生活を支配するものについて考える

【ゲスト】 小倉英敬 (ラテンアメリカ研究、八王子憲法9条の会事務局長)
尾沢孝司 (『異議あり!日韓自由貿易協定』キャンペーン)

他報告・アピール予定
(15:30~17:00/会議室1)

いま世界を見わたせば、資本の世界化(グローバル化)によっていたるところで貧富の格差がひろがり、人々がいやおうもなく分裂させられていることに気づく。矛盾が顕在化する一方で、アメリカを中心としたグローバルな「新世界秩序」にとらえられた私たちの生活は、ますます〈戦争=秩序〉と結び付けられようとしている。軍事力に支えられた「自由」を根拠に、巨大資本はますます活動の舞台を求めて徘徊する。

この11月18-19日には釜山でAPEC主脳会議が開かれ、12月には香港でWTOの閣僚会議が開催される。あらゆる国が「自由貿易」とその秩序に向けて収斂しようとするなかで、貧困を世界に強制するグローバル資本主義へのたたかいと〈反戦〉を重ね合わせつつ考える。

★体験する—— WORKSHOP

ハウツウ・デモ——運動表現を変えるには?

★Part.1 デモはこうして準備する

★part.2 デモの〈やり方〉を考える

【ゲスト】 小田マサノリ、成田圭祐 (遊動社)、他交渉中
(17:00~17:30 / 20:00~21:00 / 集会場)

デモをするとき、「なぜやるか」「いつやるか」は熱心に議論される。そして、「どうやるか」はそれほどかえりみられなかった。しかしいま、それは少し変わってきた。とくにサウンド・デモ以降、デモをするなら自分にじっくりくるデモを、と考える人たちがまず増えた。そんな人たちとともに、デモの作り方をいっしょに考えてみたい。

★意思表示する—— DEMONSTRATION

(17:30~19:00/コース未定)

ここにしかないデモを企画中。どうぞ期待!

★見る—— GALLERY

(13:30~20:00/集会場スタンド廊下)

写真展「抑圧社会に抵抗する人々」

こんな、クソ面白くない社会でも人々は明日をあきらめない。それは形のない空虚なものではなく、「確実に自分の手につかむことのできるもの」——そう願って人々は闘う。

闘いにおける人々の真の武器は、自ら発する抵抗の言葉である。憎悪でもなく復讐でもない。

明日を信じて、つかみ取ろうとする希望だ!

【展示内容】

山口花能: チェチェン難民取材 (アゼルバイジャン・グルジア)

かめよん: 「靖国解体」行動、そのほか街頭デモや市民運動

渡邊修孝: イラク・サドル派住民、辺野古・海上基地建設阻止行動

〈ビラ〉展(仮称)

1枚のビラから行動は呼びかけられ、意思が発されてきた。しかしその多くはその役目を終えると同時に散っていく。そんなビラの数々にもう一度光を当てつつ、時代が変わってもなお、私たちの運動ツールのマストアイテムであるビラを考える。

★見る—— MOVIE

『Marines Go Home —— 辺野古・梅香里・矢臼別』

(12:15~15:00/会議室1)

知らなかった梅香里がここにある/見たことのない矢臼別がここにある/伝えられることのなかった辺野古がここにある

9年になろうとする闘いで米軍基地の建設を止め続けている沖縄・辺野古、半世紀以上、米軍の射爆場に苦しめられてきた韓国・梅香里、演習場のど真ん中に住み続ける川瀬汎二さんたち北海道・矢臼別の闘い。この映画を観る人は、報道されないそれぞれの地における「生活・地域破壊」、そして闘いに磨かれ、育ったたくさんの美しい人たちに出会うことになるでしょう。

今、自衛隊がアメリカと共にイラク占領に加担、国内でも有事法制制定など戦争の出来る国造りが進み、憲法改正が現実味を帯びています。この映画に記録されている世界は将来の私達が直面する可能性のある「戦争の出来る社会」に繋がっているのかもしれない。

●制作 = 森の映画社、監督 = 藤本幸久、DV・カラー・135分・05年
(上映企画: 医療福祉の戦争協力に反対する連絡会議)

ミニシアター (13:00~20:00 <予定>/集会場スタンド下)

「歌は何のために—ジョリモーム路上コンサート」(制作=ビデオプレス、カラー・20分・05年)、「ルールは警告する—尼崎事故とJR東日本<短縮版>」(制作=ビデオプレス、カラー・10分・05年)
(上映企画: ビデオプレス)

★交流する—— PRESENTATION BOOTH

(13:30~21:00/集会場・2Fロビー)

戦争に反対する/もうひとつの世界を知る...さまざまなブースが一室に。出会い、語り、学ぼう。書籍&CD&Goods/Art/独立メディア/グループ紹介/世界の料理 etc...

*ブースはビラ表面・賛同団体をご覧ください(他、個人出展あり)

★感じる—— MEDIA INSTALLATION

(19:00~20:00/集会場・2Fロビー)

世の中はなんて息苦しいのだろう。しかし、そして、だからこそ、不当なことにNOという声をあげることは、当然のことなのだ。海外のデモ・抵抗の様子をメディア・インスタレーションという映像空間のなかで紹介。時、場所を越え反戦の思いを共有しよう。